

お経には、人をあなどるような心をもちません、嫉み心を起しません等、自己を満足させる為の欲心は起さない様に戒めています。しかし、善根功德を積みたいたいと思ひ努力するのも欲心ですから、無欲を勧めるものではありません。私は、心は心の中にも心が存在すると思っています。そして、心が正しい反応をするように心のコントロールをしてほしいと思っています。空海大師様は 心暗き時は即ち遇う所悉く禍なり、眼明らかなれば則ち途に触れて皆宝なり」と、又沢庵は 心こそ心迷わす心なれ、心に心、心ゆるすな」と言う。人間には 善の魂と悪の魂が存在しています」。善と悪の魂が常に争っているのです。悪の心が勝った時悪の魂はしてやったりと喜び、善の魂はやられたと悲しむのです。しかし、悪心は恐ろしいですよ、シロアリが家を食いつぶしてしまう様に、我々の心身を蝕んでいくのです。法然上人様は 真実というは、もろもろの虚仮の心の無きを言うなり、虚仮というは、貪瞋等の煩惱を起して、正念を失うを、虚仮心と釋すなり」とおうせになりました。(貪)とは解り易く言えば暴利を貪る事であり、欲のみ深く際限なく物を欲しがる心をさします。瞋(とほ)とは自分に相反する見解を抱く者に対して怒りをあらわす心をいいます。要するに 貪瞋に負け、自分勝手な欲望を満たす為に人としての道を踏み外す事はするなと言う事です。自分の為にはなく、あらゆる人々の仕合せを願いやさしい言葉、やさしい態度で接し平和を願うことでしょう。その為には時々々の心の運び方に気を配る事が必要です。皆共に善縁を結べるように手を取り合つて悪縁を結ぶ事に成らないように熟慮を重ねた上で行動をしなければと思います。

あるテレビ番組を見ていて驚いた事があります。フランス人とモンゴル人の御夫妻に食事をする時には何と云って食べ始めますかと聞いたところ、言う言葉が無いと言うのです。私はビックリしました。頂きます」は他の生命を犠牲にしないと食事が出来ないことから、手を合わせ絶対粗末にしません有難うという気持ちを表現する言葉であると思っっています。この心を表現する言葉の無い国があるとは想像していませんでした。ただ、言葉があるから良くて、言葉が無いから悪いと言う事ではありません。内容が伴わなければ意味のないことです。食事を残す日本人が多いそうです。マタイ女史にも褒めて頂いた「もったいない」の精神が少しうすれてきたのでしょうか？ 私達は消費経済の暮らして忘れていた「もったいない」を思い起こし、物の大切さ尊さを家族で味わう様にしなくては、それこそバチがあたります。今、バチあたりな「サギ」事件が多発しています。母親は「もったいない」がだましようい」と言う言葉があります、その通り、母親をだまして多額の現金を手に入れる族がいるのです。注意を呼び掛けているにもかかわらず事件は頻繁に起こっています。それは母には我が子を守ろうとする母性本能が働くからです。罪を作らず。二十五年六月一日